

# webサイトの 表示速度改善 基本ガイド



表示速度の遅さは致命的な問題になる

## はじめに

webサイトを活用したビジネスにおいて、画面が表示される速度は大きな影響を与えます。低下すれば、検索順位が下がるだけでなく、訪問したユーザーの不満足に繋がりが求めていた成果が出せないため、表示速度を改善させる方法として本資料をお役立て頂けると幸いです。

webサイトのパフォーマンスを調べるツール	P4
webサイトの表示速度の違い（弊社運用のサイトで比較）	P5
なぜwebサイトの表示速度は重要なのか	P6
表示速度のパフォーマンス判定基準	P7
webサイトの表示速度が遅くなる主な原因と対策難易度	P8
webサイトの表示速度改善方法① テキストの圧縮や不要なコードの削除	P9
webサイトの表示速度改善方法② 画像の圧縮や削除	P10
webサイトの表示速度改善方法③ 余計なCSSの削除や全体的な圧縮	P11
webサイトの表示速度改善方法④ 余計なJavaScriptの削除や全体的な圧縮	P12
webサイトの表示速度改善方法⑤ サーバーのスペックアップ	P13

# GoogleのPageSpeed Insightsとは



あらゆるデバイスでウェブページの読み込み時間を短くしましょう



[詳細をチェック](#)

[最新ニュース](#)

[ドキュメント](#)

[ウェブパフォーマンスについて](#)

計測ツール：<https://pagespeed.web.dev/>

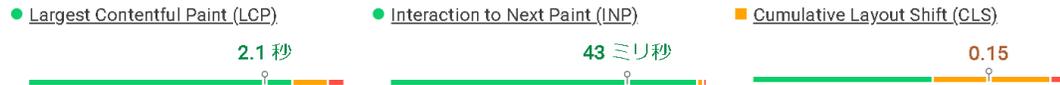
Google PageSpeed Insights（ページスピードインサイト）は、Googleが提供するウェブページの表示速度を測定し、改善点を提案してくれる無料ツールです。

# GoogleのPageSpeed Insightsで診断（パソコン）

## パフォーマンスに不合格

ウェブに関する主な指標の評価: 不合格

ビューを開く



その他の重要な指標



過去 28 日間の収集期間  
セッション全体の長さ

さまざまなデスクトップデバイス  
さまざまなネットワーク接続

多数のサンプル (Chrome ユーザー エクスベリエンズ レポート)  
すべての Chrome バージョン



計測ページ : <https://funгры.co.jp/cnaps/interview/keyperson15/>

## パフォーマンスに合格

ウェブに関する主な指標の評価: 合格

ビューを開く



その他の重要な指標



過去 28 日間の収集期間  
セッション全体の長さ

さまざまなデスクトップデバイス  
さまざまなネットワーク接続

多数のサンプル (Chrome ユーザー エクスベリエンズ レポート)  
すべての Chrome バージョン



計測ページ : <https://enpreth.jp/media/white-paper-strategy/>



## webサイトの表示速度とは

webサイトの表示速度とは、画面がブラウザ等で表示される速度であり、高速化することでユーザーの満足度を高め、ビジネスの成果を向上させるため、SEO対策や検索エンジンからの評価を高めるには、表示速度の改善に取り組むことが重要です。

### 影響① 検索順位

表示が遅いとwebサイトの質が低いと判断され上位に入れない

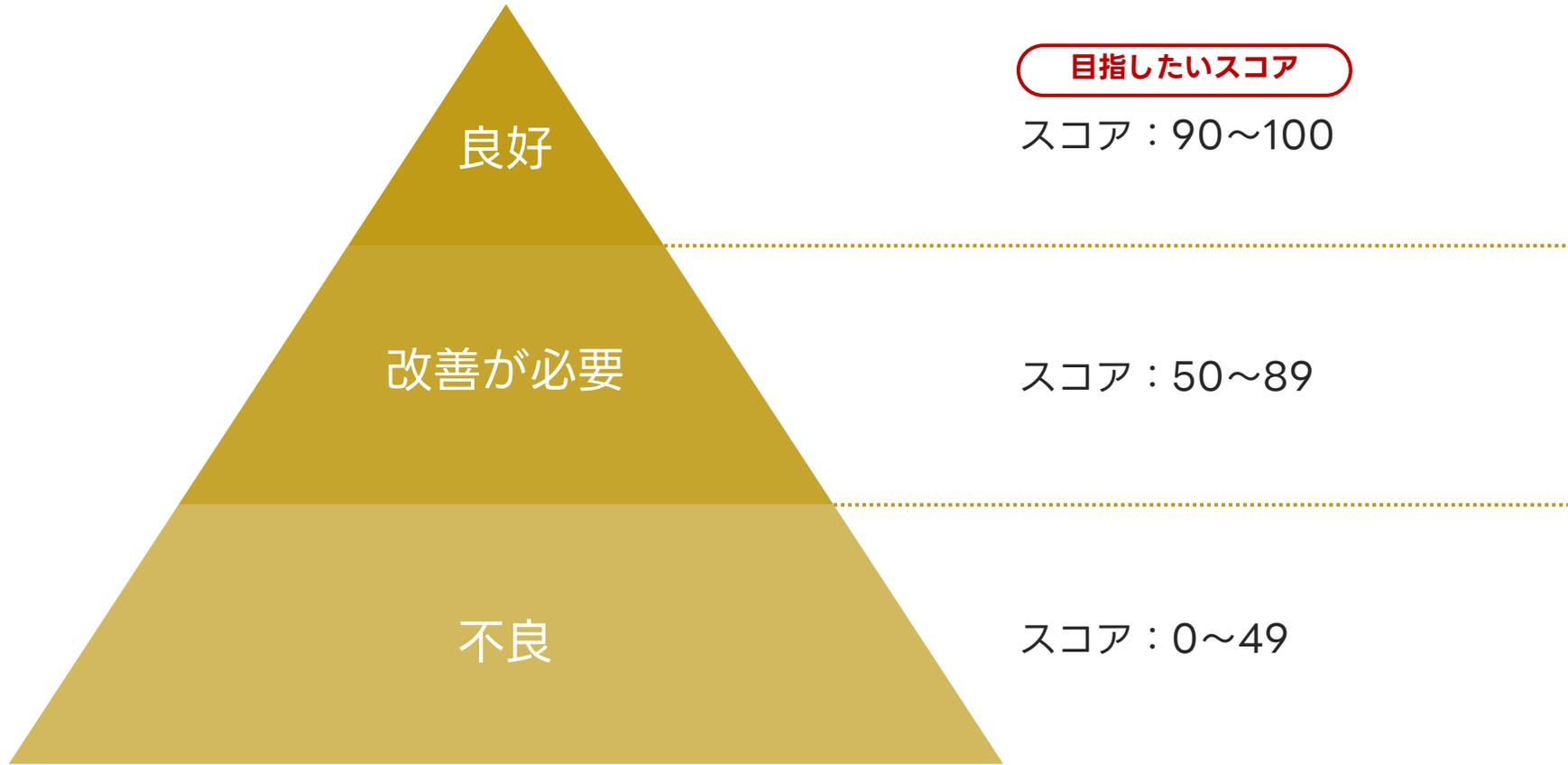
### 影響② コンバージョン

表示が遅いとフォーム送信前に離脱が発生してしまう

### 影響③ 顧客満足度

表示が遅いとユーザーの満足度を下げブランドが弱まる

## 評価基準は3段階



難易度：低い

難易度：高い

テキスト

画像

CSS

JavaScript

サーバー

web知識がなくても対応可能な範囲

web知識が必要な範囲

## テキストの圧縮や不要なコードの削除

<p>コメントが入ります</p>

<br>

余計な部分は削除

<br>

<p>コメントが入ります。</p>

<p>コメントが入ります。</p>

<p>コメントが入ります。</p>

<p>コメントが入ります。</p>

<p>コメントが入ります。</p>

- ・テキストの圧縮
- ・不要なコードの削除

など、少しでも不要な情報を入れない状態を保つことで、ページの表示速度は高まっていきます。専門知識がなくても対応できる範囲なので、ぜひ試してみましょう。

## 画像の圧縮や削除

### 圧縮前

webサイト  
表示速度  
改善ガイド



表示速度の遅さは致命的

106KB

### 圧縮後

webサイト  
表示速度  
改善ガイド



表示速度の遅さは致命的

56.8KB

使用した圧縮ツール：iLoveIMG  
<https://www.iloveimg.com/ja/compress-image>

一つ一つのサイズはあまり変わらないかもしれませんが、1ページに画像が多くなればなるほど、圧縮した際の容量は減り、webサイトの表示速度の改善に大きな影響を与えます。

また、今は使わないがあとで復活させる画像などを、そのままソースコード上に配置していると、速度低下の原因にもなるため、使わないのであれば外しておきましょう。

## 余計なCSSの削除や全体的な圧縮

```
body, html {  
    font-size: 14px;  
}  
code, table {  
    color: #333  
}
```

```
table{  
border-collapse: collapse;  
}
```

使用していない  
CSSは削除

ページのレイアウトを調整するため、CSSの記述が増えていきますが、運用段階で使わなくなったCSSもそのまま残っているケースが多いため、使わない場合は削除しましょう。

また、記述が縦に長くなると、CSSの読み込み自体が遅くなるため、余計な改行などを削除して圧縮した状態を保ちましょう。

## 余計なJavaScriptの削除や全体的な圧縮

```
<script src="library1.js"></script>
```

```
<script src="library2.js"></script>
```

```
<script src="library3.js"></script>
```

```
<script src="library4.js"></script>
```

```
<script src="library5.js"></script>
```

使用していない  
JSは削除

使用していないJavaScriptは削除したり、記述が長いのであれば短くします。

また、静的なwebサイトであれば、JavaScriptを使用しなくても問題ないため、JavaScriptがそもそも必要であるかを検討して、不要であれば外してしまいましょう。

## サーバーのスペックアップ



webサイトの表示速度は、webサイトを入れているサーバーのスペックに大きく依存しています。スペックが弱ければ、それだけ表示速度へダイレクトに影響があるため、コスト面を加味しながら、なるべくパフォーマンスが出る、高レベルなスペックのサーバーへ切り替えて頂くのがお勧めです。

Webサイトの表示速度は、ユーザー体験とSEOに直結します。

表示速度の遅延は離脱率を高め、コンバージョンを阻害する一方、改善はユーザー満足度と検索順位を向上させます。

PageSpeed Insights等のツールで定期的に測定し、最適化を継続することで、競争力のあるWebサイトを作っていきます。





<b>運営</b>	株式会社ファングリー
<b>設立</b>	2020年10月
<b>代表者</b>	松岡 雄司
<b>所在地</b>	東京都渋谷区南平台町15-13 帝都渋谷ビル5F
<b>資本金</b>	25,000,000円（資本準備金を含む）
<b>従業員数</b>	36名（2023年5月1日現在）